

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード



シルバークの過ごし方

9月のメジャーSQを通過。日経平均株価も月初の9000円割れの状況から順調に見直しが進んでいる。イベント通過による投資家心理改善が効いているが、カレンダーを見ると強気姿勢で臨み難いのではないだろうか。

来週の9月第4週には大型連休、通称「シルバーク」が存在する。シルバークも4月末からのゴールデンウィーク同様に事前の「手舞い売り」「連休の谷間は高い」という需給要因が働く。乗り切り方としては、全体観では事前の手舞い売りを念頭に置き、谷間は薄商いで先物相場の急変を警戒しながら、短期投資に徹して乗り切りたいところだ。

物色対象としては、新興市場など軽量株や低位材料株、参加者限定で賑わう期待の高い仕手性の強い銘柄がセオリーとなる。国内系証券会社の投資判断も手掛かりとなるだろう。安定性を望むならば、外部要因の影響を受け難い内需系銘柄や9月末の配当権利取りに着目する方法もある。

前回では、調整局面に陥りやすい「9月相場」の特徴を述べたが、資本の本国還流(リバトリエーション)による円高圧力が月末にかけて上値を抑えていくだろう。来月には、歴史的な「株価暴落」が数多く発生していることも忘れてはいけない。弊社では市況レポートを随時提供中。気になる方は、弊社まで問い合わせしてほしい。